

Eye love you

Spring
2016 vol.39



日本医療機能評価機構
認定病院
日本医療機能
評価機構認定病院



医療法人 小沢眼科内科病院

〒310-0845 茨城県水戸市吉沢町246-6 TEL029-246-2111 FAX029-304-5111

<http://www.kozawa-ganka.or.jp/>

予約専用TEL 029-304-5550

副院長 塙本 宰



2016年になりましたが、本年は小沢眼科内科病院にとってマイナーチェンジの年になります。5月の連休を利用して約1週間かけて改装を行うことになりました。私達を取り巻くテクノロジーに進化にともない眼科検査器械がOCT（前眼部、後眼部）やオプトス（広角眼底カメラ）など次々と進化しております。そのスピードは目まぐるしく、今までは10年ひと昔という進化の速度が5年ひと昔になってきております。その都度小沢眼科内科病院では一新しておりますが、この度、特に検査室が手狭になりその拡張や増加した患者さんに対応すべく診察ブースの追加、外来に硝子体注射ができる手術室の作成、内科診察室の充実などを基軸に改装を行います。改装期間中に若干実務能力が低下いたしますのでご不便をおかけするかもしれませんが、どうぞご理解の程よろしくお願い申し上げます。

近年、特に眼科治療で大きく様変わりしたことは、加齢黄斑変性症や黄斑浮腫（網膜静脈閉塞症、糖尿病黄斑浮腫）、近視性脈絡膜新生血管などに対して硝子体注射が行われるようになり大きなウェイトを占めるようになったことです。なんとか治療回数を少なく効果的に行いたいと一部では手術療法も取り入れて努力はしておりますが、この流れはしばらく続きそうです。高額な硝子体注射を繰り返すことは医療経済を圧迫して困った問題となっております。硝子体手術においては小切開硝子体手術が普及して格段に治療成績がよくなりました。当院では最新の治療を取り入れてできるだけ良い結果をだそうと考えて治療成績もまとめながら自己研鑽に励み邁進したいと思っております。

昨年度より始まりました獨協医大教授 妹尾正先生の角膜専門外来も好評です。角膜疾患の患者さんに対して専門的に対処できる体制ができておりますので是非お困りの先生はご利用ください。

これからも小沢眼科内科病院では古くから築きあげてきたご紹介医の皆様や患者さんとの温かい人間関係を保ちつつ、新しい医療技術も取り入れてバランスのとれた医療機関でありつづけたいと思っております。医療を単なるビジネスやサービス業としてとらえるのではなく、本来は人と人の繋がりが温かいコミュニケーションにあることを忘れずに小沢眼科内科病院らしい姿でありつづけたいと思っております。

関係医療機関の方々にはいつも患者さんを御紹介くださりまして有難うございます。患者さんの治療のみならずコミュニケーションには当院では気を配っているつもりではありますが至らぬ点も多数あると存じます。そのような際には遠慮無くおっしゃってくださいますと可能な限り改善したいと思います。是非、当院の向上のために御指摘ください。



看護部 紹介

小沢眼科内科病院は眼科専門病院の拠点として県内・県外から多くの患者様が受診されております。最近特に手術目的とした紹介状受診患者様が多く手術件数も年々増加している現状です。また、日帰りでの手術も年々多くなっており、白内障以外に加齢性黄斑変性症を対象とした硝子体注射の手術も日帰りで行っています。高齢化に伴い認知症や独居の方も多く、日帰り手術時でも家族の協力や地域の支援が重要であり、在宅・退院支援の重要性や地域支援・継続看護として外来受診時の関わりが大切であるといえます。

看護部の組織は眼科外来・内科外来・病棟・手術室の4部署で看護助手、パートも含め約60名のスタッフで業務遂行しております。看護部は毎年目標管理を基本に年間教育計画を立て、部署毎に看護部の理念【全ての人々に質の高い看護サービスを提供します】を基本とした安全で安心な医療・看護を提供し、看護師一人ひとりが患者様に寄り添う心を忘れず、質の高い看護技術・支援の提供が出来るよう日々努めています。

さらに、高度化・複雑化する医療に対し看護の専門性を発揮するため、継続看護教育や外部研修にも積極的に参加し最新の技術の習得や知識の強化を図り、個人のモチベーション維持にも力をいれ組織力強化を目指しています。特に近年、看護職として組織上30~40代が半数以上で、年齢構成上・産休・育休者が年々増加しており、子育て支援や女性の働きやすい職場環境の改善を目指し看護職から変革・改善できる組織として改善に取り組んでいるところです。

医療はチームで行うものです。チーム医療の基本は他職種と連携し協力することだと思います、何が大切かを考え行動できる仲間・スタッフの協力体制も大きな力となり得ます。その為には他職種間の連携を更に密にし、協力体制を強化し、当院としてのきめ細かな対応、患者様中心の医療・看護支援の基本に則り、みなさまの声を業務に反映できる組織として、今後も日々努力して参ります。

看護部 副総師長 小林 町子



眼科外来

眼科外来は問診室・診察室・外来手術室の3か所に分散しています。スタッフは12名で、1日約400名の患者様の対応をしています。

問診室では患者様の症状を聴き、緊急性のある場合や感染症疑いのある場合などを判断し、適切な対応を行い、診察室では診察介助やカルテ移動をしています。眼科外来手術室では手術後の目の消毒や逆さ睫毛を抜いたり、その他外来で行う処置や手術の準備・介助をしています。また、蛍光眼底造影検査やレーザー治療についての説明や介助、入院や外来手術の説明も行っています。

目の検査や処置、手術は必ず目を開いて（散瞳）いなければならない事が多いため、恐怖心を持つ方も少なくありません。そのため、説明の際には注意点を分かりやすく伝え、患者様の不安緩和に努めています。分からない事があれば、スタッフにお声かけ下さい。

眼科外来主任看護師 関本佳子

手術室

当院手術室・中央材料室は看護師12名、看護助手4名計16名で勤務しています。眼科手術全てに対応できる最新の医療を基本とした医療機器を備え、お子様からご年配の方まで幅広い年齢層の方々が手術を受けに来られます。昨年度においては約8000件の手術が行われました。

その中でいかに安心して手術を受けて頂くか日々配慮しながら業務に当たっています。眼科の手術は見えてしまうことへの恐怖心も強いため、手術前は短い時間の中でも安心して手術を受けて頂けるよう、声掛けを密にして手術の簡単な流れの説明や疑問などにお答えして不安の軽減に努めます。手術中はBGMを流し少しでもリラックスできる環境作りを心掛け、何かあったら手術中でもお話しできることを説明します。

他院からの紹介や緊急手術にも対応しており、毎日が忙しい業務ですが専門的な知識と技術をもって手術が行われ、患者様に安全・安楽・安心して手術を受けていて頂けるようスタッフ一同頑張っています。

手術室副主任看護師 今泉 亜矢

病棟

病棟は46床のベッド数からなり、特別室A・特別室B・個室・大部屋（4人部屋）となっています。

入院される対象は小児から高齢者まで幅広く、又手術内容も白内障手術から硝子体手術・緑内障手術など様々であり、個々に応じた看護を行っています。去年1年間（平成27年1月～12月迄）で入院数が5031名で入院手術が5112件でした。

当院は入院・退院が激しく、1日に20名以上の患者様が入れ替わります。入院期間が短い方は1泊2日ですが、長い方だと1か月以上入院される方もいます。患者様は茨城県内だけではなく、近隣は福島県や栃木県などから、遠方だと鹿児島県や愛知県・岡山県・富山県などからもいらっしゃいます。

眼科の治療は、手術が終わって退院したら終了という訳ではありません。退院されたら自宅でも目薬や飲み薬の治療を継続して頂きますので、入院中から正しい目薬のつけ方を指導し覚えていただきます。しかし、どうしても覚えられない場合はご家族の協力も必要となります。

私達は、患者様が安全で安心して治療に専念できる療養環境を提供できるよう、又退院された後も治療を継続して頂けるよう支援を行っています。

病棟主任看護師 石橋 悦子

内科

当院は眼科専門病院というイメージが強くて内科の存在をご存じない方も沢山いらっしゃると思います。

当院の内科は「生活習慣病」と言われる糖尿病や高血圧、高脂血症などを専門とし他にも風邪などの一般内科、健康診断、インフルエンザなどの予防注射、眼科の手術前の検査など多岐に渡って診療しています。

内科医2名のもと看護師5名、臨床検査技師2名、看護助手1名で検査、問診、指導、処置など全てを行っており通院患者は糖尿病の方が多数いらっしゃいます。医師は糖尿病専門医の資格を持っており、スタッフも糖尿病療養指導士の資格を5名が有しています。生活習慣病はその名のとおりに生活習慣を見直すことで病気が改善することが多いのですが「どうしたら良くなるんだろう？」と患者さんと一緒に悩んで答えを見出そうと毎日、内科の全スタッフが熱意と知識を注いでいます。

長く内科に通ってくださっている患者さんはまるで身内のような感覚で接して下さっています。安心して受診していただける皆様の「かかりつけ医」になればと思います。

お身体のお悩みがある方はぜひ内科の窓口にお声をかけてください。

内科外来師長看護師/糖尿病療養指導士 石川 京子



ピア・カウンセラーのご案内

当院ではピア・カウンセラーの軍司先生をお招きし、病気やけがによる視力低下のため、日常生活や今後について不安を抱えた方々の相談に応じています。ピア(PEER)とは「同じ立場の仲間」という意味です。先生は自らも中途失明という状況から自立され、同じような方々の支援の為にカウンセラーになられました。今までカウンセリングを受けられた方には、それぞれ視覚障害者に対する市町村の利用サービスについて（補助具の貸し出し含む）や、日常生活動作訓練施設への紹介など様々なアドバイスを行ってきました。

院内の掲示に気付かれなかった方もこの機会に知って頂ければと思います。「質問はないが不安な気持ちを聞いて欲しい」という方も是非お声かけ下さい。

尚、軍司先生のカウンセリングは予約制となっており、予約日は月曜日ですのでご希望の方はご相談下さい。



眼科外来主任看護師 関本佳子

流涙症の治療 内視鏡下涙管チューブ挿入術

医師 木原 真一

1. 涙の排水溝（涙道）と、その閉塞による流涙症

涙は上瞼の外側にある涙腺で産生され、眼にたまった涙の大半は目元の上下にある涙点から涙小管→総涙小管→涙嚢→鼻涙管を通過して鼻の中に排泄されます。この涙の排水溝を「涙道」と総称します（図1）。

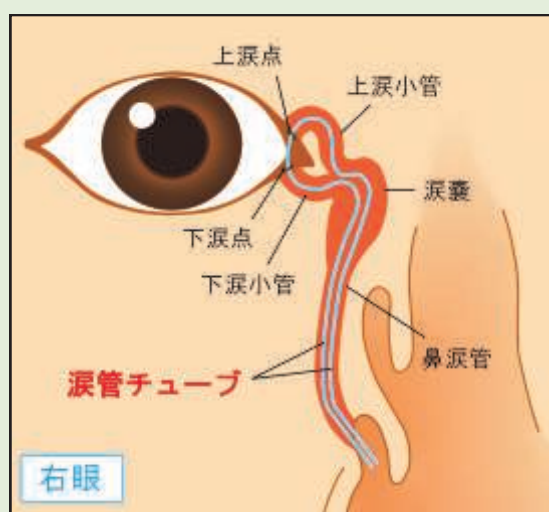


図1

涙道が狭くなってしまうと涙が鼻に排泄できなくなるぶん、外にこぼれてしまいます。涙道の下流（鼻涙管）が詰まると涙嚢に眼脂がたまり、逆流するようになります。上流（涙小管）の閉塞では眼脂は出ず、流涙が主な症状になります。流涙や眼脂が日常生活の妨げとなり、治療を希望される場合は、手術の適応となります。

以前のチューブの挿入は盲目的に挿入していましたが、手先の感触だけに頼った方法では成功率が高くありませんでした。近年の技術の進歩により、涙点から涙道内に挿入できる極細（直径1mm）の内視鏡が開発され、より確実にチューブが挿入できるようになりました（図2）。

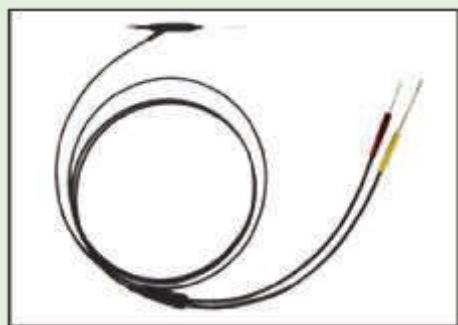


図2

2. 手術の方法

目元から細い針で麻酔の注射をします（滑車下神経ブロック）。涙点を拡張した後、涙道内視鏡を挿入します。内腔を確保するために、生理食塩水を灌流しながら行います。涙道内を画像で確認しながら、閉塞部位を穿破します。内視鏡が涙道内を通過してうまく鼻腔まで到達したら、内視鏡に沿わせてシリコンのチューブ（NSチューブ）を挿入します（図3）。



図3

チューブは目元から挿入し、鼻内視鏡を用いて鼻腔から引き抜きます。チューブは3ヶ月ほど留置した後に抜去します。チューブ留置中は抗生剤と炎症を抑える点眼薬を使い、外来にて定期的に涙道洗浄をします。チューブは柔らかい素材でできており、ふつう異物感はありません。

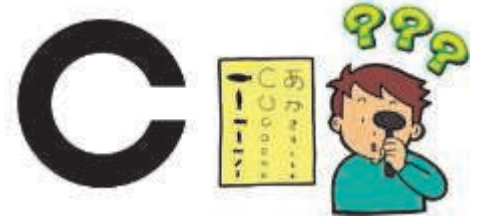
3. 治療の危険性と限界

内視鏡が涙道粘膜を突き破って皮下に迷入してしまう場合があります（仮道形成）。仮道形成が起こると手術中に急に痛みが強くなります。内視鏡が皮下に迷入した場合、再び正しい道に内視鏡が進むよう努力しますが、灌流液による腫れがひどくなると手術継続が難しくなり、いったん手術を終了し、後日に再手術させていただく場合があります。

うまくチューブが通り、3ヶ月間留置できても、抜去後に再閉塞してしまう場合があります。病歴が長い方や、急性涙嚢炎の病歴がある方は再閉塞のリスクが高いといわれています。閉塞があまりにも強くて内視鏡ではどうしても開通させられない場合や、チューブを抜くとどうしても再発してしまう方では、皮膚を切って直視下に涙道を再建する手術（涙嚢鼻腔吻合術）が必要となります。

眼科検査科の紹介をさせていただきます。

検査科には22名の視能訓練士（国家資格者）で成り立っています。主に本院で勤務していますが五軒町診療所、友部診療所にも1名づつ勤務しています。



眼科の検査は「視力検査」が主と思われがちですが実は様々な検査をしております。

眼球自体はピンポン玉ほどの大きさですが中は複雑で眼球といっても眼球の表面、眼球の中、筋肉、神経そして眼球の奥行など眼球のあらゆるパーツの検査があります。それらを様々な器械を駆使して精密なデータを出していきます。昨今、眼科検査器械はめざましいほどの発達を遂げております。今までは実際に見ることができなかった部分を最新器械で画像や数字のデータで詳細に分かるようになり診断しやすくなりました。

治らないと諦めていたものも治療の道が開けてきているのも事実です。先生が診断するためのデータを正確に出力できるように日々心がけております。

Doctor's file ファイルNO.1 安藤 幹彦

来年で小沢眼科内科病院に着任して20年目を迎えます。私は大学卒業後、母校である昭和大学眼科学教室に入局いたしました。

当教室は眼科手術、特に眼外傷を得意としていたおかげで、眼科全般に亘る臨床を学ぶことができました。全国的にも顕微鏡手術が大きく発展した時代であったことも幸いしたと思います。静岡県に関連病院、昭和大学藤が丘病院で研修し、同門の小沢先生と御縁があり当院へ勤務する運びとなりました。



現在、谷口総院長はじめ当院で診療されている斜視外来 稲富先生、神経眼科外来 小沢先生、眼形成外来 田邊先生は大学医局でご指導賜った恩師の先生方であり、五軒町診療所院長 今井先生は大学の先輩です。これらの先生方と諸々の大学出身の医局の先生方と診療ができることは大変心強く感謝しております。

東京で生まれ育った私にとって、水戸は自然と調和したとても美しい町です。家庭ではミトネーゼ(みとっぽ??)として、この恵まれた環境を楽しみながら子育てに励んでおります。



おしらせ

5950 病院
独自調査！病種・治療法別
全国トップ40 最新版

手術数でわかる
いい病院
全国&地方別
ランキング
2016

30 治療法の詳細データ
5大がん
【乳・肺・肝臓・胃・大腸】ほか
心臓病・脳疾患
頭・耳・首・膝・股・むね
前立腺肥大症・痔など

全国ランキング 網膜硝子体手術データ

順位	病院名	手術件数	手術件数	手術件数	手術件数	手術件数
1	多摩記念眼科病院	1297	435	169	142	72
2	大塚労災病院	1181	216	194	27	1
3	鎌田保健衛生大学病院	1147	315	187	56	1
4	杏林大学病院	1143	466	101	152	41
5	小沢眼科内科病院	1140	258	494	105	9
6	西島西・井上眼科病院	970	295	31	19	0
7	眼科杉田病院	970	256	73	138	161
8	札幌医科大学	845	235	83	200	22
9	札幌医科大学	753	335	244	306	23

網膜硝子体手術

全国 **5位**

硝子体手術は上位5位までが1000件超えとなっております。

週刊朝日MOOK

「手術数でわかるいい病院
全国&地方別ランキング2016」

(平成26年1月30日発行)

に当院が掲載されました。

検査で「血糖が高い」と言われたことはありませんか？

「血糖が高い」方は「糖尿病」が強く疑われます。糖尿病は、体のさまざまな臓器を冒す「合併症の病気」です。

糖尿病による合併症

失明	年間 3,500人以上
人工透析	年間13,000人以上
足の切断	年間 3,000人以上

その他、糖尿病に罹患している方はそうでない方より、心筋梗塞や脳梗塞のリスクが2～4倍になると報告されています。

もともと日本人は糖尿病になりやすい体質をもっていると考えられていたところに、食生活の欧米化や運動量の減少、体重の増加により糖尿病を発症する人がここ20年で爆発的に増加しました。日本人における糖尿病患者さんは疑いのある人を含めると40歳以上の4人に1人という時代です。糖尿病が恐ろしいのは、自覚症状が出にくい病気であるということ。健診などで検査を受けるまで、全く気付かないことも少なくありません。皆さんは健診をうけていらっしゃいますか？定期的に健診を受け、健診で見つかったら絶対にそのままにしないで必ず医療機関を受診して自分の糖尿病の状態をちゃんと調べてもらうことが大切です。

しばらく健診を受けていないという方。「喉が渇く」「疲れやすい」「最近体重が急に減った」などの症状は、もしかしたら糖尿病かもしれません。症状があれば健康保険で検査が可能ですので、一度内科で検査を受けてみてください。

当院眼科に通院中の患者さんの中には、糖尿病合併症のひとつである網膜症を発症されて治療を受けている方もおられると思います。血糖のコントロールは網膜症の悪化を抑えるためにも重要です。

糖尿病コントロール目標

目標	コントロール目標値		
	血糖正常化を目指す際の目標	合併症予防のための目標	治療強化が期待される際の目標
HbA1c(%)	6.0未満	7.0未満	8.0未満

日本糖尿病学会が定める「合併症予防のための」コントロール目標はHbA1c 7%未満です。眼科に定期的に通院することも重要ですが、ご自身の血糖コントロールがうまくいっているのか確認してください。

当院内科は糖尿病専門医2名・糖尿病療養指導士5名が常勤し、糖尿病をはじめとする生活習慣病の指導や治療に注力しています。糖尿病に関する疑問や相談は内科窓口でお受けしますので遠慮なくお声かけください。

副院長/内科部長 水谷正一



内科 information

内科診療案内	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~	○	○	○	○	○	○	
午後 3:00~ (土曜2:00~)	○	○	○	○	○	○	

休診日：日曜日・祝日

受付時間
月～金 午前 8:30～11:30 / 午後 1:00～5:30
土曜日 午前 8:30～11:30 / 午後 1:00～4:30

診療時間
月～金 午前 9:00～ / 午後 3:00～
土曜日 午前 9:00～ / 午後 2:00～

* 内科の土曜午後は予約患者様のみとなります。

分院だより

附属大宮診療所 〒319-2254 茨城県常陸大宮市北町120-1 TEL：0295-53-6800 FAX：0295-53-6801



診療案内	月	火	水	木	金	土	日
午前 8:30~	○	○	○	○	○	○	
午後 1:30~	○	○	○	○	○	○	
休診日：日曜日・祝日 受付時間：午前 8:15~11:30/午後 1:15~4:30 *コンタクトの新規受付は午後4:00までです。							



大宮診療所は平成7年2月に今井正之初代院長（現・五軒町診療所院長）のもと開院し、平成18年12月より私が引き継がせていただき、この2月で開院22年目となりました。この間来院患者数の増加とともに開院当初は終日医師1名体制でしたが、現在では混雑する曜日や午前を中心に部分的に医師2名体制で診療致しております。

当院は眼球内部の手術は行っておりませんので、従来通り白内障、緑内障、網膜剥離、糖尿病網膜症などで手術が必要な方は吉沢本院へご紹介致します。新たに、比較的軽症で日帰り白内障手術ご希望の方に関しましては、五軒町診療所にご紹介することが可能になりました。その他にコンタクトレンズ部門では1日使い捨てタイプの遠近両用コンタクトレンズの取り扱いを開始致しました。検査部門では光干渉断層計（OCT）を新たに導入し、網膜のより詳細な検査が可能となりました。

今後も常陸大宮地域の眼科診療に貢献してまいりたいと存じます。

大宮診療所院長 川原 敏行

附属五軒町診療所 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町2-2-11 TEL：029-224-5722 FAX：029-225-5721



診療案内	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~	○	○	○	○	○	○	
午後 2:30~	○	○	○	○	○	○	
休診日：日曜日・祝日 受付時間：午前 8:45~12:30/午後 2:00~5:30 *コンタクトの新規受付は午後4:30までです。							

附属友部診療所 〒309-1702 茨城県笠間市五平72-1 TEL：0296-71-2311 FAX：0296-71-2312



診療案内	月	火	水	木	金	土	日
午前 8:30~	○	○	○	○		○	
午後 1:30~	○	○	○	○		○	
休診日：金曜日・日曜日・祝日 受付時間：午前 8:15~11:30/午後 1:15~4:30 *コンタクトの新規受付は午後4:00までです。							

★次回の分院だよりは友部診療所です

吉沢本院 information

水戸駅より



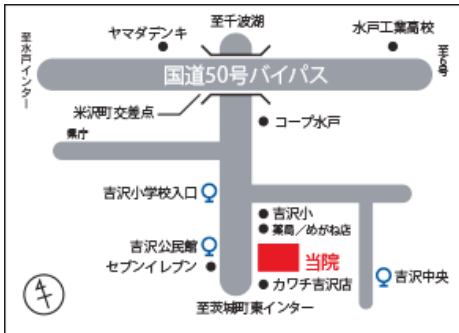
タクシー

約20分 桜通り経由・小沢眼科吉沢町



バス

約30分 南口2番のりば県自動車学校行き
「吉沢公民館前」下車徒歩1分
※水戸駅南口⇄病院間で
シャトルバス運行あり



眼科診療案内	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00~	○	○	○	○	○	○	
午後 2:00~	○	○	○	○	○	○	

休診日：日曜日・祝日

受付時間：午前 8:30~11:30/午後 1:00~5:30

*ご予約時間30分前までに受付をお済ませください。

*コンタクトの新規受付は午後4:30までです。

予約専用TEL **029-304-5550**

午前 9:00~午後 5:30 月曜日~土曜日 (祝日除く)

*内科診療時間につきましては内科 information をご覧ください

無料シャトルバスのご案内

運行区間：水戸駅南口 ⇄ 吉沢町本院

料金：無料

乗降り場：【水戸駅南口】コムボックス310 1階サンクス前
【病院】 正面玄関前

《注意事項》

- 駐車場付近では歩行者や営業の妨げにならないようルールをお守りください。
- 周辺道路の混雑により時間通りの運転が出来なくなる場合がございます。ご利用の際は予めご了承いただき、お時間には余裕をお持ちください。
- シャトルバスは定員制です。満員の際はご乗車いただけません。
- 増発はございません。また、他の交通機関をご利用いただいた場合の保証はしかねます。

運行時間予定表

水戸駅南口発	
8	00
9	00
10	00
11	00
12	
13	00
14	00
15	00
16	00
17	00
18	

病院発	
8	
9	30
10	30
11	30
12	
13	30
14	30
15	30
16	30
17	30
18	30



編集後記

厳しい寒さも終わり、穏やかな季節がやってまいりました。

新年度ということで、気持ちを一新し、皆様にさまざまな情報をお届けできるよう励んでいきたいと思っております。

広報委員会：谷口 重雄/小沢 忠彦/木原 真一/小林 純一/小林 町子/外山 雅子/荒井 香織